

(4) 仮説2に関して～日常環境部の取組～

ア 児童の運動や健康に関する実態の把握

実態把握に当たって、スポーツ庁発行全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙を参考に中央小健康体育アンケートを作成した。

- 【1, 体育の授業は楽しいか】
- 【2, その理由】
- 【3, 体育の授業で「前より上手になっているな」と思うことはあるか】
- 【4, できるようになったきっかけ】
- 【5, 体育の授業で自分のめあてや課題を持って取り組んでいるか】
- 【6, 運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツは好きか】
- 【7, 好きな理由】
- 【8, 嫌いな理由】
- 【9, 運動やスポーツを見るのは好きか】
- 【10, 運動やスポーツは得意か】
- 【11, 好きなスポーツ、やってみたいスポーツなどはあるか】
- 【12, あると答えた人は、そのスポーツは何か】
- 【13, 何かをするとき、最後までやりとげてうれしかったことはあるか】
- 【14, 難しかったことでも失敗をおそれないで挑戦してるか】
- 【15, 自分にはよいところがあると思うか】
- 【16, 朝ご飯は毎日食べているか】
- 【17, 毎日どのくらい寝ているか】

低・中・高学年毎に回答しやすい文言にし、4段階の評価で回答を得た。（以下〔4〕ととある場合は最も高い評価を表す）9月に第1回のアンケートを実施し、アンケートの結果を踏まえて授業改善や専門部の取組に生かすことにした。

- 【1, 体育の授業は楽しいか】
楽しい〔4〕・・・70%
あまり楽しくない〔2〕及び楽しくない〔1〕・・・9%
- 【5, 体育の授業で自分のめあてや課題を持って取り組んでいるか】
取り組んでいる〔4〕・・・45%

上記のアンケート結果から、7割の児童は体育の授業を楽しんでいると感じているが、一方で楽しくないと感じている児童も本校に約50人、クラス平均で約3人いることが分かった。めあてや課題を持って取り組んでいる児童は、全体の半分に満たないことが分かった。この結果から、誰一人取り残さないための手立ての工夫や、めあてや課題を明確にした授業づくりをしていくことにした。

イ 環境づくりと日常活動の工夫

(ア) 校内掲示

校内の掲示板に各学年の体育授業の取組、東京オリンピック関連の記事、食育・健康教育に関するものを掲示した。日頃から児童の目に付く場所に他学年の体育授業の様子を掲示することで学習意欲を高め、運動やスポーツに興味をもつことができるような工夫を図った。



各学年の取組の掲示

(イ) 委員会とのタイアップ

運動に親しみ、体力向上につながるような取組について、体育委員会を中心に企画し、全校児童で行った。

6月には、学年ごとにクラス対抗のドッジボール大会を開いた。みんなで運動に親しむことや、本校の課題である投力の向上を図ることもねらいとした。普段あまり外遊びをしない児童にも体を動かすことの楽しさを感じられる機会となった。



ドッジボール大会の様子

12月には、持久走大会に向けた体力向上の一環としてマラソンモーニングを実施した。朝の会が始まる前の5分間、楽しみながら走ることができるよう音楽を流しながら教員も児童と一緒に運動場を走った。持久走大会後には、走った周回に応じてクラスごとの上位3名を表彰した。

(ウ) 体育環境の整備

体育・運動に関する環境を整えることで、授業改善と運動量確保につながり、結果として児童の能動的な活動が期待できると考え、体育用品の購入と整備を行った。

単元計画表や本時のめあて、運動への関わり方の視点（する・みる・支える・知る）等を視覚的に捉えることができるよう、体育館用の移動黒板や大型テレビを活用した。さらに、持ち運びしやすい軽いマットを使用したり、跳び箱移動台を制作したりするとともに、教材置き場を見直して利便性を高める工夫をしたことで、準備時間が短縮され授業の効率化が図られた。



教材置き場の工夫

体育の授業で楽しみながら取り組めるよう、ワイヤレススピーカーを用いて様々な活動場面で音楽を使用したり、運動が苦手な児童への配慮として、柔らかく扱いやすいバスケットボールを使用したりした。環境面では、投げる運動に親しむことができるよう、体育館にストラッグアウトを設置したり、運動場にはドッジボールコートを作成したりすることで、体育の授業以外でも児童が活動できるようにした。



ストラッグアウト

また、スポーツテストの結果を掲示することで、児童自身が運動への興味関心や課題意識を持つことができるようにした。



スポーツテストの結果